

2019年度「研究者の横顔」レポート

氏名 : 北川 雅敏

1. 研究者になるうとしたきっかけ

大学の講義を通じて発がんとそこに関わる遺伝子およびそのクロマチン構造に興味を持ち大学院に進学することを決めた。しかし博士課程終了にあたり、がん治療薬の開発を目指すため製薬企業に就職し、がん細胞周期の研究を開始した。しかし企業では基礎研究の重要さ面白さを再認識することになり、アカデミックにかけると決め九州大学助教授として転出した。

2. 助成研究の内容紹介

研究課題「がん細胞の運命の制御を実行する長鎖ノンコーディングRNAの解析と医学応用」

最近我々は、重要な細胞運命決定因子であるTGF- β シグナル伝達において、Smad3と結合して上皮間葉転換(EMT)誘導に機能する新規長鎖ノンコーディングRNA(lncRNA) *ELIT-1*を同定することに成功した(Cancer Res 2019)。本研究では、*ELIT-1*の機能全容解明に加えて、がん細胞の運命決定発動と維持に機能するlncRNAの同定を目指す。さらにそれらのlncRNAを分子標的とした新しいがんの診断、治療への応用を目指す。

3. 2の将来に繋がる結果予想・目標

私はほとんどが機能未知であるlncRNAに目を向け、がん細胞の運命制御に機能する新規lncRNAを同定し、新たな創薬のターゲットとして評価できた場合は製薬企業での経験を活かして化合物スクリーニングを展開して行きたいと考えている。

4. 全国のRFL関係者に一言メッセージ

ONE TEAMで頑張りましょう！